

# 巻 頭 言

---

北海道算数数学教育会

高等学校部会長 柏 木 秀 雄

(北海道札幌稲西高等学校長)

平成21年度、第28回北海道高等学校数学コンテストが、例年のことですが北数教代数解析研究会の先生方に出題から採点までご尽力いただき、実施できましたことを大変うれしく思っています。また、会場校として関わりました全道各地の先生方のご協力に感謝を申し上げます。

今年度は、全道各地から28校241名の生徒の皆さんに参加していただきました。参加した生徒諸君は、数学の問題を考えることが楽しく、また、学校の授業で学習したことだけでなく、もっと難しい問題や発展的な内容に興味や関心がある生徒も多いと思います。

数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道を立てて説明するという数学的な活動は楽しいものです。更に、数や図形についての関係を見いだしたり、考察の範囲を広げて発展的に考えたりするところが数学の面白さだと思います。そして、数学で使われる式、表、グラフ等を用いて、与えられた情報・条件を的確に判断して解決に結びつけることを喜びだと思えます。

数学には、もともと事柄を簡潔に説明する言語としての機能があります。考える時やコミュニケーションの手段として活用されてきました。

学習指導要領の「数学の目標」の一節が、現行では「事象を数学的に考察し処理する能力を高め」の部分が、平成24年度から適用される新学習指導要領では「事象を数学的に考察し表現する能力を高め」と「処理する」から「表現する」という文言に変わりました。

このことは、数学的論拠に基づいて判断したことを、言語活動によって説明したり議論したりする態度を育てることが改善の視点の1つになっています。

数学を学ぶ高校生の皆さんが、これからも数学の楽しさや面白さに触れる中で、数学的な能力が更に伸びていくとともに、言語活動を通して表現力等が身につくことに期待をしています。そして、本数学コンテストの活動が、これからも高等学校の数学教育を推進する上で、一つの役割を果たし続けることを願っています。

最後になりましたが、北海道教育委員会・札幌市教育委員会・北海道高等学校長協会・北海道新聞社の後援、また、ベネッセコーポレーション・北海道電力・北海道情報大学・予備校クラスユニック・IMS数学英語ゼミ・現役予備校TANJ I各社の協賛に厚く感謝を申し上げます。